

双ヶ丘中だより



京都市立双ヶ丘中学校 4/10 第2号 文責 林

学校教育目標 「心豊かに探究心をもち、未来へ歩み続ける生徒を育成する」

平成30年度 第70回入学式

4月9日(月)に、多くのご来賓の皆様や保護者の皆様にご臨席いただき、節目となる第70回入学式を挙行しました。159名の新入生が、桜は満開を過ぎていましたが、新しい制服に身を通し校門をくぐりました。新入生は、引き締まった表情で希望に満ちた姿を見せてくれました。式は、厳粛な雰囲気の中にも温かさを感じるものでした。式辞の一部を以下に載せておきます。

一つ目は、「出会いを大切にしてほしい」ということです。皆さんは、御室・宇多野・花園の三小学校を中心にいくつかの小学校から入学されました。初めて出会う仲間もたくさんいます。「一期一会」という言葉を知っていますか。もともとは、安土桃山時代に活躍した千利休が説いた茶の心得にあると言われています。本日の皆さんに当てはめてみれば「一生に一度の出会いを大切にすべき、出会った人との時間を大切にすべき」という教えです。出会いを大切に、楽しいときやうれしいときには、自分のことのように共に喜んでくれる、また悲しいときや困難にあたったときには共に悩み、苦しみを分かちあってくれる、そのような真の友をつくってください。そのためには、他人の価値観や考え方を尊重し仲間を大切に、仲間を思いやるやさしい気持ちと間違いや誤りをしたときは、素直に正していける勇気をもってください。

二つ目は、「根っこを大切にしてほしい」ということです。桜の木など樹木のお医者さんである樹木医という職業があります。一人の樹木医さんに依頼の連絡が入ったそうです。その依頼とは、あるお寺にある立派な桜の木が枯れてしまいそうで元気がないので、何とか元気を取り戻させてほしいというものでした。樹木医さんが、早速お寺を訪ねて診断してみると桜の木の根っこが参拝の方が通られて絶えず踏まれている状態になっていました。樹木にとって根っこは、養分や水分を樹木全体に届けるために大切なものです。大切な根っこが絶えず踏まれている状況では、桜の木が元気をなくすのも当然です。そこで、樹木医さんは、根っこの上を渡る通路のようなものを作って、根っこを守るように作業されました。その結果、桜の木は徐々に元気を取り戻したそうです。人間にとって中学校時代は人生を豊かにしていく根っこを育てる時期であると感じます。目標を定めて、目標に向かってコツコツ努力を積み重ねることが根っこを育てることにつながります。努力をコツコツ積み重ねることが人生を豊かにしていく鍵なのです。「努力」を積み重ねることは決して楽なことではありませんが、小さな努力を地道に積み重ねた後に成功が待っているのです。皆さんも授業や学校生活のいろいろな場面で小さな努力を地道に続けて根っこを育ててくれることを願っています。国民栄誉賞に輝いた将棋棋士の羽生善治さんは、「継続する力こそが才能なのである。」と言っています。

以上、「出会いを大切に」と「根っこを育てる」を心にとめて、双ヶ丘中学校の生徒としてスタートをしてください。

就学援助制度について

京都市では、お子達が市立小・中学校へ通学するにあたり、経済的な理由により、お困りの保護者に対して、学用品費や給食費などを援助する就学援助制度を設けています。

申し込みの手続きやご相談・ご質問がある方は、学校までお申し出ください。

